

マルオメボソシャコ

Clorida rotundicauda (Miers, 1880)

軟甲綱 口脚目 シャコ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由 近年、瀬戸内海の2地点（1地点が岡山県）から日本初記録種として報告された。知見が乏しいため情報不足とした。

形態 体長は最大で9 cm程度。第1触角節背面隆起の前端と頭胸甲の前側角は丸く棘を欠くか、ごく小さな棘を有する。第2触角第2節の前端は、眼の前端を大きく超えて前方に伸長する。捕脚指節は内縁に4または5歯を有する。大顎髯を有する。尾節の亜中央棘、中間棘、側棘は雌雄ともに短く、特に大型個体で先端が丸い。尾節背面隆起は特に雄で丸く膨らみ発達する。マルオメボソシャコは以上の形態によって、同じく岡山県レッドデータブックに掲載済のサヌキメボソシャコ *Clorida japonica* Manning, 1978 を含むメボソシャコ属 *Clorida* Eydoux & Souleyet, 1842 や、形態のよく似るナガメボソシャコ属 *Cloridina* Manning, 1995 の種から容易に見分けることができる。



写真：オス，全長 40 mm。岡山県笠岡市，2023 年 5 月 17 日，中島広喜採集，撮影。

分布 タイ，シンガポール，マレーシア，中国，台湾（タイ産地），日本にかけて分布している。国内では岡山県と兵庫県瀬戸内海側でのみ確認されている (Nakajima *et al.*, 2024)。

生息状況

タイ産地の台湾ではマングローブ域から報告されている (Ahyong *et al.*, 2008)。国内では2020年から2023年の間に岡山県と兵庫県の瀬戸内海側にて、河口付近に広がる泥干潟から発見された (Nakajima *et al.*, 2024)。本種同様に同県レッドデータブック掲載種のコクテンシャコ *Cloridopsis scorpio* (Latreille in Latreille, Le Peletier, Serville & Guérin, 1828) (中島・佐藤, 2023) も、岡山県笠岡市ではマルオメボソシャコと同環境で発見されている。ただし、コクテンシャコは約1世紀前の時点で瀬戸内海に加え三重県や東京湾などからも採集されていたのに対し (Nakajima & Ariyama, 2022)，マルオメボソシャコは2024年の報告が日本初であった。本種が好んで生息する河口干潟環境の減少・悪化なども考慮すると、生息状況把握のための情報収集は急務と考えられる。

文献

- Ahyong, S.T., Chan, T.-Y. & Liao, Y.-C. 2008. *A Catalog of the Mantis Shrimps (Stomatopoda) of Taiwan*. National Taiwan Ocean University, Keelung.
- Nakajima, H. & Ariyama, H. 2022. Record of *Cloridopsis scorpio* (Latreille in Latreille, Le Peletier, Serville & Guérin, 1828) (Stomatopoda: Squillidae) from Japan: rediscovery after almost a century. *Plankton & Benthos Research*, **17**: 185–191.
- 中島広喜・佐藤大義 2023. コクテンシャコ. In 岡山県野生動植物調査検討会（編），岡山県版レッドデータブック2020 補遺（動物編）。岡山県生活環境部自然環境課，岡山。
- Nakajima, H., Ueda, T., Itani, G. & Osawa, M. 2024. The mantis shrimp genus *Clorida* Eydoux & Souleyet, 1842 (Crustacea: Stomatopoda: Squillidae) in Japan, with the first Japanese record of *Cloridina ichneumon* (Fabricius, 1798). *Zootaxa*, **5463**: 501–523.

（中島広喜）